

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年7月5日 (2012.7.5)

【公表番号】特表2011-528678(P2011-528678A)

【公表日】平成23年11月24日 (2011.11.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-047

【出願番号】特願2011-519085(P2011-519085)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/04 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 47/04 (2006.01)

A 6 1 K 47/02 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 P 25/06 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02 Z N A

A 6 1 P 25/04

A 6 1 P 29/00

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 47/04

A 6 1 K 47/02

A 6 1 K 47/36

A 6 1 P 25/06

C 0 7 K 14/47

【手続補正書】

【提出日】平成24年5月17日 (2012.5.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

疼痛および / または炎症治療用の、一般式 (I) : $R_1 - AA - R_2$ 、その立体異性体、その混合物、ならびにその化粧品のおよび薬剂的に許容される塩のペプチドであって：

AA が配列番号 2 のアミノ酸配列に含まれる 3 ないし 40 の隣接するアミノ酸配列であり；

R_1 が H、置換型または非置換型の非環式脂肪族基、置換型または非置換型の脂環、置換型または非置換型の複素環、置換型または非置換型のヘテロアリーラルキル、置換型または非置換型のアリール、置換型または非置換型のアラルキル、および $R_5 - C(O) -$ からなる群から選択され；

R_2 が $-NR_3R_4$ 、 $-OR_3$ 、および $-SR_3$ からなる群から選択され、 R_3 および R_4 が独立であり、H、置換型または非置換型の非環式脂肪族基、置換型または非置換型の脂環、置換型または非置換型の複素環、置換型または非置換型のヘテロアリーラルキル、置換型または非置換型のアリール、および置換型または非置換型のアラルキルか

らなる群から選択され；

R_5 が H、置換型または非置換型の非環式脂肪族基、置換型または非置換型の脂環、置換型または非置換型のアリール、置換型または非置換型のアラルキル、置換型または非置換型の複素環、および置換型または非置換型のヘテロアリールアルキルからなる群から選択されることを特徴とするペプチド。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のペプチドにおいて、 R_1 が H、 C_2 ないし C_{24} の置換型または非置換型の非環式脂肪族基、 C_2 ないし C_{24} の置換型または非置換型の脂環基、または $R_5 - C(O) -$ であり、 R_5 が C_1 ないし C_{24} の置換型または非置換型の非環式脂肪族基、または C_1 ないし C_{24} の置換型または非置換型の脂環基であることを特徴とするペプチド。

【請求項 3】

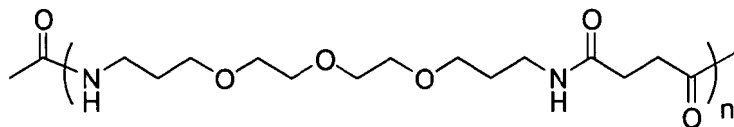
請求項 2 に記載のペプチドにおいて、 R_1 が H、アセチル、tert-ブタノイル、ヘキサノイル、2-メチルヘキサノイル、シクロヘキサンカルボキシル、オクタノイル、デカノイル、ラウロイル、ミリストイル、パルミトイル、ステアロイル、オレオイル、およびリノレオイルからなる群から選択されることを特徴とするペプチド。

【請求項 4】

請求項 1 に記載のペプチドにおいて、 R_1 がポリエチレングリコール重合体であることを特徴とするペプチド。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のペプチドにおいて、前記ポリエチレングリコール重合体が：



であり、 n が 1 ないし 100 の範囲となりうることを特徴とするペプチド。

【請求項 6】

請求項 1 に記載のペプチドにおいて、 R_2 が $-NR_3R_4$ または $-OR_3$ であり、 R_3 および R_4 が独立であり、H、 C_1 ないし C_{24} の置換型または非置換型の非環式脂肪族基および C_1 ないし C_{24} の置換型または非置換型の脂環基からなる群から選択されることを特徴とするペプチド。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のペプチドにおいて、 R_3 および R_4 が H、メチル、エチル、ヘキシル、ドデシル、およびヘキサデシルからなる群から選択されることを特徴とするペプチド。

【請求項 8】

請求項 1 に記載のペプチドにおいて、AA が配列番号 4、配列番号 5、配列番号 6、配列番号 7、配列番号 8、配列番号 9、配列番号 10、配列番号 11、配列番号 12、配列番号 13、配列番号 14、配列番号 15、配列番号 16、配列番号 17、配列番号 18、配列番号 19、配列番号 20、配列番号 21、配列番号 22、配列番号 23、配列番号 24、配列番号 25、配列番号 26、および配列番号 27 からなる群から選択される配列に含まれる、隣接するアミノ酸配列であることを特徴とするペプチド。

【請求項 9】

請求項 1 ないし 8 のいずれか 1 項に記載のペプチドにおいて、前記ペプチドが一般式 (I)、その立体異性体、その混合物、またはその化粧品もしくは薬剂的に許容される塩であり、リポソーム、ミリカプセル、マイクロカプセル、ナノカプセル、スポンジ、小胞、ミセル、ミリスフェア、ミクロスフェア、ナノスフェア、リボスフェア、マイクロエマルジョン、ナノエマルジョン、ミリ粒子、マイクロ粒子、およびナノ粒子からなる群から選択される送達系または持続放出系に取り込まれることを特徴とするペプチド。

【請求項 10】

請求項 1 ないし 9 のいずれか 1 項に記載のペプチドがタルク、ベントナイト、シリカ、デンプン、またはマルトデキストリンからなる群から選択される有機ポリマーまたは固体ミネラル担体に吸収されることを特徴とするペプチド。

【請求項 11】

請求項 1 ないし 10 のいずれか 1 項に記載のペプチドがクリーム、複数の乳濁液、無水組成物、水性分散剤、油、ミルク、香油、泡、ローション、ゲル、水性アルコール溶液、塗布薬、美容液、石鹸、シャンプー、軟膏、ムース、軟膏剤、パウダー、バー、まゆ墨、スプレー、およびエアロゾルからなる群より選択される製剤に含まれることを特徴とするペプチド。

【請求項 12】

請求項 1 ないし 11 のいずれか 1 項に記載のペプチドが布、不織布、または医療機器に取り込まれることを特徴とするペプチド。

【請求項 13】

請求項 1 ないし 12 のいずれか 1 項に記載のペプチドが抗酸化剤、NO - 合成酵素阻害剤、皮膚弛緩剤、抗炎症剤、鎮痛剤、抗菌剤、抗真菌剤、またはその混合物からなる群から選択される、有効量の少なくとも 1 の有効成分を含む組成物に含まれることを特徴とするペプチド。

【請求項 14】

請求項 1 ないし 13 のいずれか 1 項に記載のペプチドが局所、経腸、または非経口経路により投与されることを特徴とするペプチド。

【請求項 15】

請求項 1 に記載のペプチドにおいて、前記疼痛および / または炎症が、神経因性疼痛、炎症性疼痛、内臓痛、腹痛、消化器系の疼痛、呼吸器系の疼痛、泌尿生殖器系の疼痛、内分泌系の疼痛、心臓痛、脾臓痛、腸痛、胃痛、脾臓痛、血管の疼痛、過敏性腸症候群、緊張性頭痛、副鼻腔炎に付随する頭痛、片頭痛、眼痛、ドライアイ症候群、術後痛、外科的な切開による術後痛、骨内への移植物の挿入による術後痛、骨の置換による術後痛、感染による術後痛、癌による疼痛、骨癌による疼痛、良性骨腫瘍に付随する疼痛、類骨腫に付随する疼痛、骨芽細胞腫に付随する疼痛、癌治療による疼痛、筋骨格痛、線維筋痛、神経痛、頸部のジストニアに付随する頸部痛、背部痛、腰痛、坐骨神経痛、神経原性炎症、皮膚刺激、敏感な皮膚、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、おむつ皮膚炎、湿疹、関節炎、関節リウマチ、変形性関節症、ヘルペス後神経痛、末梢神経障害、幻肢痛、異痛症、手根管症候群による疼痛、灼熱痛、感覚異常、顔面痛、三叉神経痛、糖尿病による神経因性疼痛、刺青または刺青の除去に伴う疼痛、腱膜瘤による疼痛、精巣痛、筋筋膜痛、膀胱痛、尿路痛、外陰部痛、膣痛、陰囊痛、会陰部痛、骨盤痛、外科手術後、パルス光治療法（IPL）による処置後、パルス単色光治療法（レーザー）による処置後、化学的ピーリング剤による処置後、または侵襲性の外部因子への過度の暴露後の疼痛または皮膚刺激からなる群から選択されることを特徴とするペプチド。